



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 177 April. 1. 2024

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



第15次インドヒマラヤ登山計画 目指すMerak(6481m) 詳細は本文P4参照

目 次

○ユース冠山東陵巖冬期登攀	高橋玲司	2	○登山用具あれこれ①	千葉泰丈	16
○15次インドヒマラヤ登山計画	星 一男	4	○委員会報告 山行	稲葉真英	17
○トレッキングクラブ懇親山行	服田康宏	6	○委員会報告 総務	今津英一郎	18
○支部員2氏が私家版を出版	編集委員会	7	○同好会コーナー	石井 仁	19
○上高地一楽しい歴史話①	和田豊司	9	○支部友コーナー	田中 進	20
○トピックス		12	○会務報告	今津英一郎	21
○登山計画提出用ホームページ			○ルーム日誌・会員異動	今津英一郎	23
活用促進	高松信治	13	○INFORMATION	星 一男	
○山書蒐集夜話 補遺	安藤忠夫	14	○編集後記		

厳冬期末踏？冠山東稜 初登攀？の記録

アルパインクラブ代表 高橋 玲司

令和の時代に、未踏の尾根があるとすれば、魅力的である。

冠山は、揖斐の奥美濃に鎮座する、その名の通りどこからも鳥の頭のようなカンムリを突き出した姿は、「奥美濃のmatterホルン」と呼ばれ、紅葉の時期になると、車で行ける冠峠から多くの登山者でにぎわう。しかし、冬季になると冠峠に通じる道は深い雪に閉ざされ、岐阜県側のアプローチは徳山ダム経由となり困難を極め取付である旧徳山村の塚集落まで国道を歩いたとしても1日かかり（実際はダム沿いの国道の歩行は許可されなかった）、実質的にア

プローチは閉ざされ、福井県側からも急激な登りと長いルート、奥美濃で往復3日はかかるかという冠山への登山者は皆無となり、厳冬期の冠山は息を潜める事となる。

春になると、旧塚集落跡や冠平から覗き見る東稜の姿は、剣岳の源次郎尾根やゴジラの背を思わせ、クライマーの登攀意欲を掻き立てる。しかし、夏季は藪が生い茂りそれはそれで困難な登攀であろうが、スッキリしない。

この東稜を、厳冬期に目指そうとひそかに闘志を燃やしていた私と、同じくJAC東海支部アルパインクラブの毛利玲子さんとで意気投合した。

毛利さんとは令和三年秋に、塚～冠平を超えて冠山を目指すルートを偵察したが、猛烈な藪で撤退。藪の合間から見える冠山東稜は、ゴジラのごとくそそり立った背を向け、あざけ笑うが如く挑戦者を拒むようであった。令和4年には福井県側から冠山本峰へ冬季トレ



核心を登る

取りつきの雪稜 核心のピナクルを目指す

ースし、福井県側から冠平までテントを運べば行けなくもないと感じた。

今秋2023年11月、冠山を超えるトンネルが開通され、福井県と岐阜県をつなぐ自動車道が通年通行となり、片道一日以上かかった冠山登山のアプローチが飛躍的に改善された。早速、塚集落跡から登るが距離が長く敗退。冠トンネル脇から登るルートを発見したが、ヤママップ、ヤマレコにアップされると途端に人気コースとなってしまった。

12月毛利さんと偵察を重ね2月10-12の連休で、アタックをしようということになった。JAC東海アルパインクラブにメンバーを募り4人集まった。奥美濃から厳冬期剣まで幅広くバリエーションクライミングを実践する毛利玲子さん、奥美濃道なき山を好み、藪山にめっぽう強い超人である郡上の鈴木寛人氏、南山大4年でたぐいまれなクライミング能力を有する河野克来君と私の4人がそろった。

2月10日天候も良くない降雪の中偵察に向かう。シタ谷を詰めるルートも視野にあったが、渡渉も考えられ、塚から延びる尾根に乗り東稜末端に下りる尾根を探るべく偵察した。

翌11日は快晴。絶好のアタック日和である。郡上から日帰りで参戦した鈴木氏と合流し、ルートと下降点を話し合う。いったん登って、尾根よりシタ谷の河床に下り東稜末端から忠実に尾根をトレースするルートである。装備は、短く切るつもりで30メートルロープ二本、カムワンセットのみ、ハーケン、スリング多くなどを用意、岩と藪のミックスであろうと想定した。

(令和1年に東稜上部は無雪期にトレースしている)

明るくなるのを待ち、登山道を登る。冠山トンネルが開通し人気コースとなったこのコースからは多くの人でにぎわう。下降点のある稜線に登り、下降を開始。昨日の偵察トレースは全くなく、忠実に予定ルートを進んで下降する。シタ谷の河床に降り立つと、深いラッセルとなりシタ谷の源頭のゴルジュを回り込み、東稜の末端に取り付く。未踏かもしれない尾根の末端に立つと、ワクワク感が止まらない。尾根の取付きからはワカンを装着し、鈴木氏のラッセルでルートを拓く。藪に雪が乗っているだけで非常に登りにくい。程なくし二メートル程の岩が出てきて、岩のスペシャリスト河野君にルートを引かせる。岩の左を回り込み登ると雪壁に出た。念のため、高橋-鈴木、毛利-河野でロープを組み登り始める。右手に面白い岩稜があったが、今回は東稜の尾根芯を忠実に辿ろうということで岩尾根を登る。左基調で弱点を突いて登ったが、カムのない私-鈴木では心配で、河野-毛利で登ってもらう。途中顕著なピナクルがあり、懸垂で下りそこからは雪稜が続いた。すでに夕暮れは近づいており、急峻な雪稜を急ぐ。

16時50分夕暮れ迫る中、冠山に登頂。積



藪とのミックス壁を登る



夕暮れ迫る頂上稜線



夕暮れ、頂上に立つ4人

年の思いが晴れた瞬間であった。

下降は登山道の雪道の舗装道路、ヘッドランプをつけるが、困難は何もない。19時登山口まで下りた。

この時代に、きっと先人が登ったであろうルートで、未踏であるはずはないと思うが、冒険的要素は未踏かもしれないと感じさせるロマンを感じるルートであった。屈強な4人がそろったのも心強かった。何より、毛利さんと偵察を重ね検討を繰り返し、冠山トンネル開通と同時に登り切った執念ともいえる山行であった。

後日、SNSにて記録を更新し、冬季の登攀記録を呼びかけたが、精通されている方から連絡があり、おそらく記録は見当たらないので、厳冬期初登かもとのこと。東海支部でトレースできたのも痛快である。

第15次インドヒマラヤ登山計画2024

インドヒマラヤ登山隊 星 一男



ラダック山脈未踏峰 6481m (Merak)

2022年夏に東海支部60周年記念第14次インドヒマラヤ登山隊は、デリーでIMFとの最終交渉でもMerak峰への登山許可が出ず、ラダック山脈のカン・ユーセイ山群に変更し、Shaldor Ri (5942m)に初登頂、Dzo Jongo (6211m)東峰第2登を果たした。昨年にIMFより、沖総隊長の中京山岳会隊が登山許可を得て踏査が行われたことを受け、再度未踏峰のMerak峰にチャレンジする。

計画の山域は、第10次隊から13次隊が継続して登頂したインド、ヒマチャル・プラデーシュ州の北にある旧ジャンム・カシミール州東方地方のラダック連邦直轄領、パンゴン山脈地区に位置している。この地域は未踏峰も多く残されていて、その内の6000m級未踏峰の登頂を目指す計画である。

美しいパンゴン湖の南側にある山域は、沖允人元評議員の登山隊が2008年にマーン峰、2011年にマリ峰を登頂し、昨年Little Merak峰までの登山実績がある。

今回の遠征は、①遠征隊を継続して出すこと②隊員の若返りを図ること③10次隊から継続している未踏峰・探検的登山を行うこと、が主たる狙いである。

今回の遠征計画は、高橋玲司支部長をはじめ、支部の海外登山委員会から助言をいただき実現した。全員登頂を目指して、万全の準備で出発したい。

隊の編成

総隊長：沖 允人

隊長：星 一男

登攀隊長：栗木洋明

隊員：印藤寿浩 印藤義子 久米 瞳

協力隊員：長谷山 薫（日本ヒマラヤ協会）

登山期間：9月4日～10月20日

行程（予定）

1月中旬に隊員募集を終え、IMFへ登山許可を申請と現地エージェントと仮契約

決定後隊員会議を行う。

3月～5月の積雪期にトレーニング山行

6月～8月 高所トレーニング

9月4日 インドに向け出発

IMF（デリー）にてブリーフィングを受け正式な登山許可を得てマナリー、レーで高所訓練

9月15日～10月1日まで登山活動

10月6日 デリーでIMF、在インド日本大使館訪問と報告

概念図



10月14日日本帰着予定

登山費用：約650万円

現地エージェント

GREATER INDIA TOUR & TRAVELS (New Delhi)

TREK INDIA OUTDOORS (Manar i)

パンゴン山脈地区は北に避暑地として有名なパンゴン湖の南に位置している。○で囲ったエリアに目指す3座・Merak峰などが並んでいる。

インドの地域研究に興味のある方は、東海支部海外登山委員会に連絡いただきたい。



Google MapでBC、C1、C2予定地を示す

トレッキングクラブ懇親山行

トレッキングクラブ委員長 服田 康宏

トレッキングクラブでは1月27日(土)～28日(日)にかけて、広く支部員、支部友会員から参加を募りオープン懇親山行を実施した。創立以来初の試みだ。行先は九鬼水軍発祥の地である三重県尾鷲市九鬼町にある「オハイ」。知る人ぞ知る絶景スポットである。リアス式海岸に映し出されるエメラルドグリーンの海は「オハイブルー」と呼ばれ、行けば必ず感動するという。発案者はトレッキングクラブ指導員・小古真也さん。計画立案から宿の手配、マイクロバスの運転までご尽力いただいた。

初日は、朝7時名古屋駅に集合しマイクロバスに乗車。東名阪から伊勢自動車道、さらに紀勢自動車道と乗り継ぐ快適なドライブを楽しみ、皇大神宮別宮「瀧原宮」と世界遺産「花の窟」に参拝した。その後は三重県立熊野古道センターへ。2007年にオープンしたこの施設は、4万平方メートル弱の敷地に交流棟、展示棟、研究収蔵棟の三つの施設が立ち並ぶ広大なものであった。展示棟では古道の歴史を紹介する映像や展示物にふれ、熊野古道に対する関心を高めることができた。この日の宿は尾鷲港に面した風情ある民宿・風帆。海の幸づくしの夕食には熊野古道センターの宮本センター長も加わり、貴重な話に花が咲いた。

2日目、宿をチェックアウトした後、マイクロバスで九鬼コミュニティセンターへ向か



う。天気もよくオハイ・ブルーへの期待が高まる。センターの駐車場に車を止め7時30分に出発する。登山口までは潮の香りを楽しみながら漁港脇の道を歩く。登山道に入りトランシーバー4台で連絡を取り合い整備されたルートを緩やかに登ること2時間、突然視界が開けるとなだらかな岩場帯に出た。海岸線を目指して岩場を下るとオハイに到着。エメラルドグリーンの海は、光の加減で午前中が一番美しいという。幸い穏やかな天候にも恵まれ、のんびりと至福の時を過ごした。

今回はトレッキングクラブのメンバー以外にも支部員、支部友あわせて9名の方にご参加いただき、みなさんと親睦を深めることができた。ひと昔前、尾鷲はずいぶん遠いイメージがあったが、今では高速道路がつながり便利になった。また機会があれば訪れたい。

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL : <http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico02/index.php/content0004.html>

支部からのお知らせです。



支部員の2氏が私家版を出版

支部報編集委員会

支部員の村中征也さんと田中 進さんの二人が、今度大変興味深い私家版を相次いで上梓されたので紹介したい。村中征也さんの『日本の原風景を描く — 名作・名曲からの50選 —』と田中 進さんの『伊藤祐民の偉大な功績 — 東南アジア・インド仏跡旅行記を紡ぐ —』である。

『日本の原風景を描く— 名作・名曲からの50選 —』 村中征也 著

村中征也さんの人物像を一言でいうならば、“マルチ”人間と呼ぶのがふさわしいであろう。そのマルチも“そこまでやるのか”と思う程の徹底振りには呆れ返る。ねたみも含めていうなら病膏膏に入るの類といってよい。



村中さんのプロフィール。1939年伊勢市に生まれる。84歳。東海銀行に入社。同時に同行山岳部に入会。以後、晩年まで社業に勤しみ、山岳部では国内を中心に趣味のカメラを抱えながらの山行が主であった。

ここまでなら、平均的なサラリーマン像だが、そろそろ定年を迎えようとする50代の半から隠れていたマルチの才能がムクムクと一気に鎌首を持ち上げたのである。

きっかけは、やはり山である。海外の山への憧れである。という訳で一人でもやれるということで、ヨーロッパアルプスに目を向ける。一度やり出すと止まらないのが村中さんで、モンブランやマッターホルンなど主なアルプスの山々22座を1997年～2008年の間に登りまくる。ガイドも初めから一緒のガイドである。そのガイドとは、家族ぐるみの付き合いとなる。

ガイドとの会話は、ドイツ語である。するともっとドイツ語が上手くならなくてはと2000年には、ミュンヘンの語学学校に8ヶ月留学してドイツ語をマスター。そうなると思えば英語もということで名古屋の英語教室にも通ってしまう。

ドイツでドイチェリードに嵌まる。すると今度は、同じ音楽系統でアルプホルンに傾倒。長野県の大桑アルプホルンクラブに入会し、演奏を楽しむと同時に杉の根の曲りを利用したア

ルプホルンそのものを自作してしまう。挙げ句の果てに自ら名古屋支部を主宰する。その一方で、オカリナにも興味を抱き、生協のオカリナ教室に入校してオカリナもマスター。

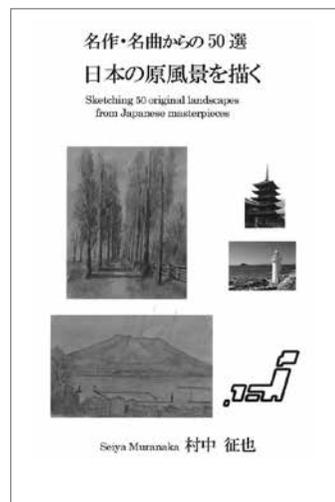
次には、水彩画に興味を抱くと、東海支部に“スケッチクラブ”を設立。支部員の杉田画伯を代表にしてその運営に当たる。

村中さんの趣味への思いは、留まるどころを知らない。次々と進化(転進)するのである。趣味の乏しい普通の人間から見れば、村中さんもっと一つのことに徹底して追求すれば、その道の大家として通用するだろうと思わないでもない。

人間ここまで色々やると、これ迄の経験・体験を本にして纏めたくなるものだ。この伝に洩れず村中さんは晩年、本作りに熱中する。2015年『白く高い山々へ — 60歳からの青春 —』、同じく2015年『美し国に生まれて』、2018年『百人一首とスケッチの旅』、そして今回の『日本の原風景を描く』である。申す迄もなくこれら4編は、村中さんの人生の集大成なのだ。

本書の『日本の原風景を描く』は、今年2月26日上梓のほやほやである。題名の通り、著者のこれ迄の旅行体験や本編発刊の為の旅50を選び、これにまつわる文学や歌曲の名作を結び付け、得意のスケッチを画いた日本国内の旅行記である。

50選は、北の北海道から順に



南に沖縄まである。訪ねた期日は、まちまちだが、読み手としては、列島をなぞりながらなので大変読み易い。編集の苦心を窺わせてくれる。

文中の名作は、小説・物語・詩・俳句・短歌などから。歌曲は、歌謡曲・映画・放送などからの抜粋である。選んだ歌曲には、歌詞を載せているが、ここに村中さんの心憎い配慮がある。歌詞だけでは趣に欠けるとQRコードを貼り付け曲も楽しんで貰おうとの配慮である。

本書から一例を挙げてみる。14.の柴又編では、QRコードをかざしてみると、「チャン、チャン、チャララン、私、生まれも育ちも葛飾柴又です。姓は車、名は寅次郎……」。とく

る。

名作を振り返りながらその場所にまつわる名曲を聴いていると臨場感は申すに及ばず、ふと、行ってみたいくなる心情にかられるのである。

著者の村中さんは、1992年日本山岳会に入会、東海支部では会計として10年、支部友委員長として4年間務めてもらっている。本書の“はじめに”で、「今回は“命が続けば”の年令になっていることを痛感……」と記しているが、村中さんのことである。もう次の構想を練っているに違いない。本は、B6版114ページ。私家版なので市販されていない。

『伊藤祐民の偉大な功績 — 東南アジア・インド仏跡旅行を紡ぐ —』 田中 進 著

本書は、松坂屋初代社長で、東南アジアなどからの留学生を名古屋で受け入れるなど国際交流にも熱心だった伊藤祐民の仏教遺跡をたずねた足跡をたどった旅行記である。



田中 進さん(80)は、大学卒業後、名古屋の松坂屋本店に就職。定年退職後、祐民が建てた別荘「揚輝荘」(千種区)の保存や活用に協力する揚輝荘の会に入会。そこで会が発行する書籍「揚輝荘と祐民」の編集に携わる。田中さんは、その中の祐民の仏跡旅行について強い感心を寄せる。併せて自身も現地を訪れたいという思いが募り、その後、何と09~13年にわたって10回以上もインドやミャンマーの祐民の訪れた地を訪ね歩く。

本書では、祐民が旅行した当時の風景と田中さん自身の旅の様子を比較しながら紹介。また、祐民の旅日記全文と現地の人々との関わりを解説したり、田中さんが参加した現地での交流イベントの様子も紹介している。

祐民の日記には、現在ほど気軽に海外に行けなかった時代に諸国を渡り歩いた苦労の大変さや、それ迄して釈迦の足跡を訪ねていることで、いかに仏教に深い尊敬の念を抱いていたかを教えてくれる。

現在田中さんは、東海支部の支部友委員会、ボランティア委員会でその持ち前のエネルギッシュな性格を生かしてフルに大活躍されている。本は、A5判で246ページ。私家版なの

で一般販売はしていない。興味のある方は、田中さんに尋ねるとよい。

伊藤祐民(1878~1940年)

清須越えて名古屋で呉服店を営んだ伊藤次郎左衛門家の15代目。1910年に名古屋初の百貨店「いとう呉服店」(後の松坂屋)を開業。同年、偶然来店したビルマのオッタマ僧正と出会ったことを機にアジア諸国の留学生の受け入れを始めた。退職後の34年に東南アジアやインドの仏跡を巡り、帰国後は旅行での体験について各地で講演した。(中日新聞から)

揚輝荘

昭和初期、覚王山の丘陵地一万坪に松坂屋初代社長の伊藤祐民が建てた別荘。当時は、政財界、文化人だけでなく、留学生も含めた国際的な交流の場となっていた。名古屋市を代表する歴史的建造物として市指定有形文化財に指定されている。この揚輝荘には、田中さんのお世話で田中さんの解説付きで東海支部員の多くが揚輝荘を訪れている。関心のある方は、田中さんに申し出るとよい。田中さんが気軽に揚輝荘を案内してくれよう。



上高地 —ちょっと楽しい歴史の話(1)—

常務委員 和田 豊司

本冊子の著者は、池田遊紀氏(故人)である。池田氏は、中日新聞社の上高地支局の管理人を長く務めていた。

現在のバスターミナルから河童橋に向かう途中の左手の森の中にひっそりと支局がある。なぜこんなところに、と疑問を持つと思うが、その理由は長くなるので別の機会に紹介したい。

ちなみに今の管理人は、前の日本山岳会上高地登山研究所(通称 山研)の管理人の内野慎一氏である。

私と池田氏は、大学の同窓である。年は違いますが、お互い池田氏は60年のそして私は70年の学園紛争で奔走があったという経緯がある。そんなご縁で支部員の柴田清康、大島 忍(いずれも故人)と霞沢岳に登った際、支局に泊まり、マツタケをごちそうになりながら昔話に花を咲かせてもらったことがあった。

その池田氏は、山を愛し、世相にもまれ上高地に安住の地を得ていて、上高地の歴史を肌で知る生き字引の一人である。

晩年、上高地の裏話を含めて歴史を文章にしたため同窓のよしみで、私にこの冊子を託したものである。原稿は、2000年頃起草されている。内容がとても興味深く面白いので連載で紹介したい。連載は、次の目次順に沿って3~4回を予定している。

1. 槍に命を燃やした播隆
2. 杣人の逢引きは徳本峠で
3. 山一筋に生きた嘉門次
4. 日本の山を愛したウエストン
5. 大正池誕生
6. 河童が住んでいた上高地
7. 井上靖・「氷壁」

第1回は、「槍に命を燃やした播隆」である。只、原文のままではつまらないので、私が文中で気付いた点や注釈を含めて<解説>として加筆させてもらった。正楷書体がそうである。

上高地 — ちょっと楽しい歴史の話 —

池田遊紀 著

「上高地」は、日本は勿論の事、世界の多く

が認める、憧れの地です。

この「上高地」、明治以来アルプスの登山基地として栄えて来ました。また古く江戸時代には、木を切り出すために、大変に賑やかな時代もありました。

歴史は、忘れられてしまった事や、アッと驚くような事など、多様です。折角の機会です。少し「歴史」に遊んでみて下さい。

「上高地」は、日本は勿論の事、世界の多くが認める、憧れの地です。

この「上高地」、明治以来アルプスの登山基地として栄えて来ました。また古く江戸時代には、木を切り出すために、大変に賑やかな時代もありました。

歴史は、忘れられてしまった事や、アッと驚くような事など、多様です。折角の機会です。少し「歴史」に遊んでみて下さい。

1. 槍に命を燃やした播隆

河童橋からは見えませんが、槍ヶ岳はアルプスの盟主です。この槍ヶ岳開山で知られる僧・播隆の話から始めることにしましょう。



播隆上人像 黒野こうき氏提供

古くから立山や白山などは、信仰の霊地として、多くの熱心な信者によって登拝されていま

した。笠ヶ岳もその一つです。

しかしその頃、槍や穂高は何故かその信仰登山の対象ではなかったのです。信州では霊地登山の信仰が薄かったのか。いや、人里からあまりに遠くその深い溪谷と、急迫した岩壁が人々のアプローチを拒否してきたという、そんな事情があったのでしょうか。

笠ヶ岳からの槍穂の雄姿は見事です。

若い頃から諸国の信仰登山を重ねてきた播隆、その笠ヶ岳からの槍の頂に、激しく心を奪われてしまいます。播隆の「槍・開山」の決意はこの時が始まりでした。

<解説>

播隆上人は富山県上新川郡大山町河内で江戸時代後期の天明6(1786)年生まれた。同じような修行僧で多くの仏像を残した円空(1632年岐阜県羽島市竹鼻町生まれ)より百数十年後である。浄土真宗の道場を務める家の次男として生まれ10代の時出家。29歳で浄土宗の僧となる。寺院にとどまることなく一介の念仏行者として山岳修行の道を歩み始める。南宮山山麓での修行、伊吹山禅定などを経て笠ヶ岳再興へと進む。



播隆屋敷跡の碑 ヤマレコより転載

岐阜県揖斐川町春日笠又、君が代に出てくる「さざれ石」を産出する「さざれ石公園」の近くの里には播隆上人の修行を支えた禅定地が

あり、この里から望む伊吹山パークウェイが通る稜線上にある(播隆屋敷)。日本山岳会東海支部も記念碑を建立。地元部落の方と笠又で播隆祭を開催している。ここ10年程中断していたが2023年から復活参加し始めた。

ここ伊吹山での禅定を終えると岐阜県上宝村岩井戸、笠ヶ岳のふもとの「杓子の岩小屋」に向かう。すでに信仰登山として笠ヶ岳は登られていたが一時中断、それをより多くの信者が信仰対象として上ることができるよう登山道を再整備再興したのである。1823年のことであった。



笠又での播隆祭(2023年8月20日)

笠ヶ岳から見る槍ヶ岳に信仰登山対象として心を動かされたことは想像に難くない。槍ヶ岳開闢(かいびやく)へ向けて動き出す。当時信濃から越中へ向けて新しい街道「飛騨新道」を開く機運もありその地域の人々の協力を得やすかったことも開闢へ向けて突き進むことができたのであろう。

槍に、信仰登山を開くための、その浄財を求める巡礼の旅に出ます。信州、飛騨、美濃、尾張、開山の協力者を求める行脚の年月を重ねます。

念願の第一回槍登山は、江戸時代の後期1826年(文政9年)のこと。協力者は信州小倉村(現・三郷村)の中田家でした。

中田家は、鷹(タカ)の捕獲、その飼育訓練を幕府から認められた、代々の名家です。西山(槍・穂高)に詳しい若者「又重郎」が案内に立ちました。

一行は槍沢をつめた岩窟(坊主岩小屋)を足場として、槍直下の肩までの偵察登山を成し遂

げます。

第二回目はその二年後(1828年)のこと、初めて槍頂上に感激の登頂を果たします。播隆四十七歳、又重郎三十二歳の時でした。播隆は大坂の難波で準備した銅像、阿弥陀仏一体と二体の菩薩を安置、四十八日間にもおよぶ槍開山の念仏行を修めます。

<解説>

この文政11(1828)年が槍ヶ岳初登頂とされているが過去の記録には初登頂という言葉は出てこない。出てくるのは開山という言葉である。播隆上人が信仰・修行のために槍ヶ岳山頂に阿弥陀像など3体の仏像を安置し開山。想像ではあるが修験者や狩猟者により初登頂はすでになされていたものと考えられるが確証はない。この年穂高岳に登った記録もあるが奉納したとされる南無阿弥陀仏名号石一柱基は現在でも確認されておらず前穂、北穂、奥穂岳のいずれに登ったのかも不明である。

第三回目の行の時、中田家では以前にも増して準備に万全を期し、弟子や信者を伴い、槍に登ります。一行が幾日も行を修めた後の事、播隆は一行を下山させ、たった一人岩窟に残ります。寒さも迫った八月(旧暦九月)も末のこと。



標高 2,700m にある坊主岩小屋(播隆窟)
AMAP MAGAZINE より転載

しかし一週間二週間……播隆は小倉村に帰って来ない。又重郎が槍に駆け付けた時、新雪の中すっかり衰弱しきった播隆はその体を岩窟に横たえていました。

播隆を背負った又重郎、その十三里の山道に足を痛み、苦心惨憺ようやくの思いで救出するのですが、これは奇跡に近い出来事でした。

山への情熱が並のものではなかった、そんな播隆、厳冬の修行を試み、同行者八人を伴い牛首に登りますが、猛吹雪と激しい寒波のため、自らも足に凍傷を負い、二指を失ったと伝わります。

「天保の飢饉」が襲います。特に東北地方をはじめとして、越後、信州その冷害による凶作は全国におよびました。

「怪僧がこの地方を徘徊、たびたび槍ヶ岳を冒し、山霊が怒りこの凶作を下したものの……」との流言が世に渦巻きます。

松本藩の役吏が中田家を詰問します。

しかし又重郎も動じません。

「西山(穂高・槍)は公儀より許された我が家代々の支配したところ、愚かなる流言を信じるとは奇怪千万である」と役人の言を封じます。

数回に及ぶ登山で、弟子や多くの信者の協力を得た播隆は「善の綱」や「鉄の鎖」をその穂先に架け、後続の安全を念じ、十数年を賭けた槍開山の大願を果たしました。

<解説>

槍ヶ岳山頂の岩が重なる穂先にわずかながら平坦な場所が作られているのをお気づきであろうか。愛知県知多半島の石工により作られたものである。天保11(1840)年、播隆上人が亡くなる年に完成。槍ヶ岳開闢である。

播隆の山への思い、西鎌尾根から双六池へ、弓折、抜戸を経て笠ヶ岳までの縦走を一日で完遂との記録もあるほど、驚くべき健脚ぶりです。槍最期の下山の日、当時地元の人にも近寄らなかった飛驒沢を下るといふ快挙を成し遂げています。時、播隆五十四歳、信仰登山という範疇をこえ、執念の「登山家」の雄姿です。

その後、槍信仰登山が途絶えるという時代背景もあり、この偉業もあまり評価されない時代もありました。しかし播隆上人の残した業績は他の追従を許さない輝かしい山の歴史です。

ちなみに、ウエストンの槍登山は明治二十五年夏のこと、播隆の初登頂から、六十五年後のことです。

参考文献1：日本山岳会岐阜支部

“山岳講演会「山と播隆—槍ヶ岳を開いた念仏行者・播隆の生涯」 黒野こうき氏

参考文献2：大町博物館・企画展資料

“播隆・槍ヶ岳への道程”

TOPICS 1

心も身も内蔵も……。

支部友会の初山行は、1月7日の鳩吹山登山である。24名が参加。帰路継鹿尾山寂光院を初詣。併せて一同松平實胤貫主の有り難い法話を拝聴する。

その後、犬山市営のさら・さくらの湯で冷えた体を温める。昨年から持ち越した汚れ切った心と体を文字通り清め、新たな年の安全登山を祈念したのである。夕刻からは、犬山駅前の居酒屋に席を移し、新年会。福引きもあったりして大いに盛り上がった次第である。

ところが、後日参加者の一人から寄せられた感想文にこんなのがあった。“折角清めた心と身なのに新年会なんぞで一気に元に戻ってしまった”と。

これを読んだ某一言居士氏曰く“とんでもない。汚れていた五臓六腑もアルコールで消毒したのさ”だと。どっちもどっち。(S. T.)



松平貫主の有り難い法話で心を浄化

TOPICS 2

里山の破壊者“イノシシ”を食う!!

森の中では木々や草本類、キノコなどの植物と共に菌・昆虫・魚・鳥・獣などが相互に依存しながら競い合っている。猿投の森は日本海から流れ込む気流の影響で太平洋と日本海の気候の影響を受け、特に多様性のある森となっている。

その森の中で生態系の頂点に近い所に居るのが人間と共にイノシシである。近年、天敵のいないイノシシは森から出て里山に出没し田畑を荒らし回っている。

登山道沿いも陽が入り溝もあるのでミミズや昆虫の幼虫が多く、掘り起しが顕著である。山里近くのほとんどの田畑にはぐるりとフェンスが取り囲むか電気柵が張り巡らされているのを見かけていると思う。イノシシ対策である。登山道の入り口にもイノシシやシカの侵入対策で扉を設置しているところが多くなってきた。

2月24日(土)の午後捕獲されたイノシシを肴に猿投の森づくりの会員の有志で懇親会を開いた。場所は、森づくりの小屋(山路小屋)近くの農家の庭先である。入手ルートは、森づくりの会員である税所さんらが森の入り口付近でワナで捕獲したイノシシである。若いイノシシの丸焼きは臭みもなく誠に美味であった。(T. W.)



イノシシの丸焼き

東海支部の「登山計画書提出用ページ」を ご活用ください

遭難対策委員長 高松 信治

東海支部では、安全登山及び遭難事故防止を図るため、登山に際しては登山届・登山計画書の確実な提出をお願いしています。

この登山届・登山計画書は各自の留守宅、緊急連絡先（留守本部）や登山を行う地域の県警地域課・所轄警察署の他に、東海支部にも提出していただくこととしています。

東海支部にメールで提出された登山届・登山計画書は日本山岳会本部にも自動的に転送されます。

ご提出していただいた多数の登山届・登山計画書のメールは東海支部・本部に蓄積され、万一の場合には参照利用されることから、参照性を向上させる等の目的でメールのタイトル付けにルールを設けています。

メールのタイトルは「入山年月日（西暦、半角）、委員会名もしくは個人山行、／、支部名、リスクグレード、目的山域、リーダー名+他参加者数」とします

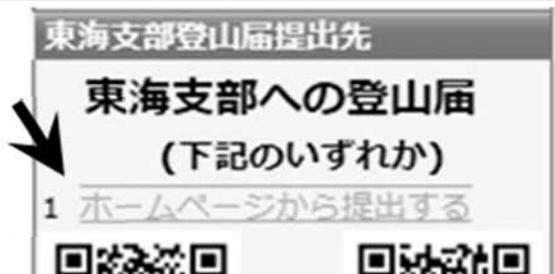
確実な提出が第一ではありますが、タイトルについては、様々な形で提出されている実態があり改善が必要です。

遭難対策委員会では、会員各位がより簡単・確実に登山届・登山計画書の提出をしていただく、メールタイトルも自動的にルールに沿った形になるよう、デジタルメディア委員会の全面的なご協力をいただき、日本山岳会東海支部のホームページ内に「支部への登山計画書提出機能」を開設しています。

パソコンの他、スマホからの提出にも対応しています。

各位の積極的な活用をお願いいたします。

日本山岳会東海支部ホームページの画面左側のメインメニューから「遭難対策委員会」をクリックしていただくか、画面右下の東海支部登山届提出先の「1. ホームページから提出する」の部分をクリックしていただくと、「遭難対策委員会のページ」が開きます。



PCの場合は「支部への登山計画書の提出」、スマートホンの場合は「登山計画書の提出(スマホから)」をクリックしていただきご利用下さい。(PC用)

(スマートフォン用)

山書蒐集夜話（補遺）

支部員 安藤 忠夫

アンカット本、並装本、上製本、無線綴じ本、などについて

東海支部報No.170～176で「山書蒐集夜話」と題し、長年にわたる山書蒐集の間に見聞した出来事のうち、興味深そうな話題のいくつかを綴ってみました。ですが、ところどころで造本関連の専門用語、意味不明な語句などによって進めてしまったようです。

で、連載途中から、時折、用語の問い合わせや、説明不足、などと云った指摘がありましたので、それらの語句について、以下、少しばかり解説をさせていただきます。

フランス装本（簡易製本）

わが国で冊子といえば、和装本（和紙を袋折りにして綴じたもの）だった。これに対し、現在、書店に並んでいるものはすべて洋装本である。

明治の代以降、次第しだいに洋装本＝フランス装本が入って来て、その装丁をもとにして製本されたところの冊子を大まかに分けて、上製本、並装本、と云う。

上製本、並装本

上製本とは、ハードカバー（hard cover）本－堅牢な表紙による本のこと。それに対し、ペーパー・ボックス（paper-backs）本を並装本と云う。この並装本は、紙製の表紙で略装した軽便で安価な本のこと。通常はこれに、冊子の保護を目的として薄手のカバーと、宣伝文が記された帯が付けられている。さらに保護函（差し箱など）が添えられているものもある。山岳書では、山と溪谷社、白山書房、などのものは、大筋において並装本であり、すべて無線



和装本

綴じである。上製本もその多くは無線綴じ。

アンカット（uncut）－本の前小口（小口）、天、地を切り揃えず、化粧断ちがなされていないもの。これが通称“フランス装本”である。

昨今、わが国で市販されている洋装本は、裁断機によって、冊子の、天、地、前小口、などを化粧断ちをして、本としての体裁を整えている。だが、それをしないアンカット本がかつて存在した。

歴史的には、西欧における古くからの冊子。このアンカット状態で一般的に流通していた本を、ペーパーナイフで切り開いて、読書に供していた。で、購入者は、内容が勝れていて、特に気に入ったものを、個人的に、思いおもいに製本し直していた（ルリュール製本）。中で、資力ある特権階級の貴族などは、お抱えの製本職人によって、革装にしたり天金を施したりして、豪華な装丁のオリジナル本にし、長く耐えられる蔵書とする、という文化があった。

なお、アンカット本と同意語に、アン・オープンド（un-opende）本なる言葉がある。

蒐書家のだれしも、ペーパーナイフで切り開けば、オリジナル状態から離れ、本の価値が下がってしまうから、切り開きたくないもの。よって、アンカット本でありながら、切り開くことなく、出版当時のままになっている冊子。一度も読まれたことなく、手垢のついていない本。……、と云った意味合いが強い。これは、蒐集家仲間の内で通ずる解釈。

糸綴じ、無線綴じ

どのような冊子であろうとも、印刷機等によって一度に、大判用紙の表裏に、通常は16頁ないし32頁分を印刷します。これを折り畳んで冊子にするわけですが、大判用紙一枚分を折り畳んだものを“折丁”と云っています。この折丁を積み重ねることによって、200頁、300頁の冊子にして、その背部を固める時、わが国で広くとられている工程が“無線綴じ”なるもので、本の背にあたる部分に鋭い刃物によって傷を付して、そこに強力な接着剤を流し込んで（塗布して）、背固めをするのが一般的。近代の機械化によって、多く（市販本のすべて）はこの方

式がとられるようになった。

それに対して、一部の趣味本では“糸綴じ”によるものがある。背に相当する部分を、麻糸で綴じ込んで冊子仕立てにする。本来的には、



下から『北の山』、『スイス日記』、『ハイランド』

これによって製本がなされていた。

明治・大正代になって次第しだいに、西欧で流通していたフランス装本(簡易製本)による冊子が渡来してきた。が、わが国の多くの出版社は、効率的、経済的な面、国民性、潔癖感などが相まって、化粧断ちをした上で、製本(上製本、並装本)し、頒布に供した。

ところが、一部の文化人、おタク族の中には、このアンカット本、云うところのフランス装本そのものに、美的価値を覚え、これをもって優越意識を見いだしたのではなかったか。日本人の“わび・さび”の美意識に通ずるものがあるような気がする。

辻村伊助『スイス日記』横山書店版、おなじく辻村伊助『ハイランド』梓書房版、伊藤秀五郎『北の山』梓書房版などがそれであり、さらに進めて小島烏水『日本アルプス』前川文栄閣版1～4巻、木暮理太郎『山の憶ひ出』愛蔵本・龍星閣版などは、アンカット本ながら豪華なハードカバー本となっている。

なお現在において、わが国でも、細々ではあるがルリュール製本と称して、勝手気ままな



『スイス日記』の
小口側

装丁にし直す文化があります。この分野で活躍されている方々が、栃折久美子、大家利夫、徳住恒市、町田邦雄、安藤栄吉、伊藤 篤、板倉厚子、などの諸氏です。

限定本、特装本、などについて

限定本、特装本、の類似語に、愛蔵本、著者本、家蔵本、などと銘打ったものがあるが、通常は記番がなされている。が、これは単に、著者の趣向によって附された呼称に過ぎない。なお、“稀覯本”なる言葉も見受けられるが、古書でありながら、めったに市場にでまわったことのない書籍のこと。

限定本・特装本、制作の心意気

新しく上梓した本の著者(編者、出版社)は、世間の評価がどうあろうと、自身で著した書籍こそが無二の一本であろうというもの。心血を注いで記したものであり、自身では最上級の評価をしている時期なのだから。

であれば著者は、その無二の自著に、最もふさわしい、装丁で飾りたいと願うことも当然であろう。ところが、現実には経済ベースという厚い壁が待っている。

市販する本は、編集の最終段階になると、その時々々の社会情勢をおしはかって発行部数、販売価格を先に決め、次いでその設定に見合った装丁がなされる。内容がどうあろうと、ほどほどの値段でないと手に取ってもらえないから、脇役である装丁に贅をこらすだけの費用を割けないのである。

妥協の積み重ねによって出版が叶ったものの、不満が残る出来栄えとなるのは必然。できあがった普及本は、著者の思いとは裏腹に、自著でありながら物足りなく、不肖の子と云ったところか。

で、もう少し意に沿った本をつくってみたいと、特装限定本の製作が狙上に上りだし、著者がその内容にふさわしいと思う材料、製本方法、形態、製本者によって、本づくりを企画し直す。少部数ならば購入者層の予測もたつ。よしんば売れ残っても、経済的な負担はわずかだから、思いの丈の籠もった本づくりに励むのである。

と云うことで、特装本・限定本こそが、その書籍の真にあるべき姿である、と云えなくもない。ただし、これは私個人の見解でしかない。

どうにも寒い

装備委員会委員長 千葉 泰丈

車中泊と銀マットとエアーマット

朝起きてパジャマから肌着に着替えるとき肌着が冷たいと感じるのですが、すぐに肌着が体温になじんで暖くなることを無意識に知っているので少しの我慢が当たり前です。冬に布団に入る時も同じです。最初は冷たいと感じる布団もすぐに暖かくなり、逆に朝、起きるときには出たく無くなるほど暖かい。それが朝になっても寒いままだったことを感じたことが有ります。と言っても布団ではなくてシュラフで寝たときの話なのですが。ただ単にシュラフの保温能力が低いだけの話では有りません。



シュラフで車中泊

以前はスキー場に良く通っていて、少しでも多くの時間をスキー場で過ごしたいとの思いから、前の日に家を出発してスキー場についてから車中泊して朝早くからスキーを楽しむという事をしていました。その車中泊ではいつも冬山用の保温力の高いシュラフといわゆる銀マットを使っていましたが、次第に銀マットでは堅くて寝心地が悪いと感じるようになり、思い立って値段の高いフカフカに嵩が高くなるエアーマットを購入して寝たときに感じたことでした。

冬用のシュラフと銀マットの時は少しも寒く感じる事が無かったのがいつまでも冷たいままで暖かくならずに、朝起きてスキーをしてからやっと体温が回復したとを感じる次第でした。後になってから言えることですが、エアーマットは寝心地は良いが、下からの冷気をブロックしてくれないという事。それはマット内の空気が対流して冷たい空気を供給してしまうためであるという事。しかも車体の下は冷た

い空気が通りぬけて地面で寝るよりもいっそう寒いという事でした。

その時初めて、車中泊は地面に TENT を張って寝るより寒いことを学ぶことが出来ました。石川県で地震の災害に会われて車中泊を余儀なくされた方たちは積もった雪の中でそんなことを感じてないかと心配です。

雨具のメーカーについて

某作業ウェアを販売している店のウェアが登山者にも結構人気が出て来ているという事を聞いていて、軽量の雨具を購入してみました。その素材の性能は、耐水圧〇〇〇〇mm、透湿性〇〇〇〇mm/m²-24hと記してありその数字を見るとゴアテックスにはかなわないが、そこそこの数字です。この数値で登山用品のメーカーが販売しているゴアテックス雨具の数分の一の値段ならば、そして簡単なハイキングで使う位ならこれは買いではないかと思ったわけです。

実際に使ってみてウィンドブレーカーとして使っているうちは問題が有りませんでした。軽量でコンパクトになってとても良いと思いましたが、小雨程度の半日のハイキングの時に雨具として初めて使ったところとても体が冷える。このことが良くありません。

これはやはり登山ウェアとしてはやはり失格だなと。改めて登山の時に着る雨具は登山用品として売っているメーカーの素材ではなくてはいけないなと思いました。

吸汗速乾に優れた肌着

歩いるときに体温が上昇したがゆえに汗が出るのは当たり前なのですが、その汗が乾かないでいると今度は体を冷やし過ぎてしまいます。体が濡れたままだと体温を奪われてしまいます。そのためにも着て



いるウェアはすぐに乾かなくて行けません。

吸汗速乾の肌着は、登山者のイロハのイというべき常識です。これもまた登山用品として作っているメーカーのものが、性能が優れていると感じます。それでも吸汗速乾の能力より排出される汗の方がどうしても勝ってしまうので体が汗で濡れていると感じるのはある意味仕

方のないことかもしれません。濡れたまま時間が経つと体が寒くなってしまいます。

そんなことを経験する中でも、ファイントラック社が販売しているドライレイヤーを着用すると汗をかいたことによる冷えの不快感がかなり軽減されていて快適だと感じます。優れた商品だと感じます。

委員会報告

【山行委員会】

2023年度 支部山行実施状況

	日程	日数	山域・山名	リーダー	参加人数
4月	8日	1日	田原 大山・雨乞山	石田伸郎	5人
	16日	1日	比良山地 蓬萊山・打見山	豊田由香	中止
	22日	1日	鈴鹿山系 カクレグラ、他	石田伸郎	5人
	23日	1日	奥美濃 小津権現山	吉田俊紀	3人
	29日～30日	2日	北ア後立山連峰 唐松岳	稲葉真英	中止
	29日～7日	9日	台高山脈・大台ヶ原山	西山秀夫	中止
5月	20日	1日	奥三河 上臈岩・百畳岩	池戸美恵	6人
	20日	1日	奥美濃 白尾山	吉田俊紀	6人
	24日	1日	恵那 笠置山	豊田由香	3人
	27日～28日	2日	伊豆半島 達磨山・金冠山、他	稲葉真英	8人
	27日	1日	屏風山山系・屏風山	鬼頭則俊	5人
	28日	1日	鈴鹿山系 八風谷・赤坂谷周辺	渡邊泰夫	中止
6月	10日～11日	2日	南アルプス前衛 奥茶白山	稲葉真英	中止
	11日	1日	飛騨 靄糠山	千葉泰丈	中止
	13日	1日	恵那 二ツ森山	豊田由香	4人
	16日	1日	若狭小浜 久須夜ヶ岳	鈴木慎吾	中止
	17日	1日	納古山 遠見山	石田伸郎	6人
	18日	1日	阿木川 本谷 沢登り	渡邊泰夫	5人
7月	15日～16日	2日	木曾水系 岩倉川 沢登り	渡邊泰夫	5人
	22日	1日	中央アルプス 烏帽子岳	石田伸郎	5人
	25日～26日	2日	南アルプス 仙丈ヶ岳	鈴木慎吾	中止
	27日～30日	4日	北アルプス 薬師岳・雲ノ平	稲葉真英	3人
8月	4日～6日	3日	尾瀬 燧ヶ岳・至山	鬼頭則俊	6人
	9日～12日	4日	北アルプス 双六岳・槍ヶ岳	栗木洋明	4人
	19日～20日	2日	八ヶ岳 編笠山・権現岳・西岳	石田伸郎	中止
	19日～20日	2日	雨乞岳南 笹ノ沢周辺	渡邊泰夫	中止
9月	23日～24日	2日	中ア 檜尾岳・空木岳・他	石田伸郎	中止
	25日	1日	湖東 織山・安土山	鈴木慎吾	3人
	30日	1日	中ア 三ノ沢岳	杉村正博	7人
10月	7日～8日	2日	頸城山塊 雨飾山	稲葉真英	8人
	12日	1日	奥越 赤兎山	鈴木慎吾	4人
	15日	1日	飛騨 築谷山	石田伸郎	中止
	21日～22日	2日	八ヶ岳 赤岳	石田伸郎	中止
	28日～29日	2日	大峰山脈 八経ヶ岳・弥山	豊田由香	4人
	29日	1日	越美山地 夜叉ヶ池・夜叉丸	吉田俊紀	4人

11月	3日	1日	奥美濃 蕪山	鬼頭則俊	中止
	12日	1日	鈴鹿山系 銚子ヶ口、他	石田伸郎	3人
	12日	1日	湖北 東ヶ谷山、他	吉田俊紀	中止
	12日	1日	鈴鹿山系 御池岳(T字尾根)	千葉泰丈	中止
	22日	1日	伊吹山地 貝月山	鈴木慎吾	5人
	23日	1日	奥浜名 富幕山・尉ヶ峰	稲葉真英	7人
12月	3日	1日	岐阜 金華山	高橋玲司	16人
	9日	1日	松阪 伊勢山上	石田伸郎	5人
	17日	1日	両白山地 大日ヶ岳	稲葉真英	7人
1月	7日～8日	2日	志賀高原 横手山、他	稲葉真英	5人
	21日	1日	鈴鹿山系 御在所岳	千葉泰丈	中止
	31日	1日	高島トレイル 赤坂山	鈴木慎吾	3人
2月	4日	1日	鈴鹿山系 藤原岳	千葉泰丈	5人
	4日	1日	飛騨 火山	渡邊泰夫	中止
	10日	1日	板取川上流 ゴンニャク	石田文男	6人
	10日～11日	2日	北アルプス 上高地	稲葉真英	5人
	17日	1日	南伊勢 姫越山	石田伸郎	中止
	25日	1日	奥美濃 貝月山	吉田俊紀	中止
3月	1日	1日	高山市西部 猪臥山	鈴木慎吾	中止
	3日	1日	銀嶺高原 霧訪山	鬼頭則俊	6人
	3日	1日	中央アルプス 経ヶ岳	渡邊泰夫	5人
	9日～10日	2日	八ヶ岳 硫黄岳	稲葉真英	6人
	16日	1日	渥美半島 大山・雨乞山	石田伸郎	6人
	18日	1日	鈴鹿山系 鈴ヶ岳	鈴木慎吾	4人
	20日	1日	鈴鹿山系 高畑山、他	池戸美恵	6人
	23日	1日	岡崎 雨山山	豊田由香	4人

※3月は予定にて記載

山行委員長 稲葉 真英

	2023年度	2022年度
実施回数	40/61回	47/76回
実施率	65.6%	62.3%
総参加人数	213人	276人
平均人数	5.3人	5.8人
実施率	67.2%	62.3%

【総務委員会】

和6年度東海支部新年会は、令和6年1月14日(日)にOMCビル4F講堂で開催された。

今年は、元日から「令和6年能登半島地震」に見舞われ、少し雰囲気沈みがちであった。それでも講演会が始まると、皆さん元気が出てきたように感じた。やはり、山の話は元気がもらえるようであった。

第一部は16:30～から講演会が行われ、草野駿希氏による北アルプス一筆書報告、實川



欣伸氏による富士山2230回に関する講演で盛り上がった。例年、外部からの講演者を招待することが多いが、今年は東海支部に近い

方々の講演となった。

第二部として恒例の懇親会を行った。

総務委員長 今津 英一朗

会員の広場

同好会紹介コーナー

ケッチクラブ 石井 仁

満開のしだれ梅を描く－農業センター

2月28日、これ以上ない快晴に恵まれ、スケッチクラブの8名が集い、名古屋市農業センターの満開のしだれ梅を絵にしたためました。今回から新しいメンバーが、嬉しいニュースです。

紅梅はなんとか纏めましたが、白梅は色付けが難しく誰もが苦勞しておりました。白くもあり薄緑でもあり薄いゴールドでもあり神秘的で、梅と画面を往復しました。

平日に拘わらず大変な人出で、食べ物にありつくのにも苦勞しましたが、イベントも盛り沢山で、日光猿軍団の猿回し曲芸が人目を惹き、スケッチ以上に熱を入れて見入った会員がいたとか居なかったとか話題になりました。

猿が曲芸終了後、籠から千円札を取り出し観客の前で振りかざしながらアピールする姿が感動的でした。よくもここまでお猿さんを教育指導したものだと感じ、「何事も練習」が大事かと考えさせられた次第です。

スケッチ後はお互いの作品を披露し合いましたが、それぞれ個性豊かでこれからの成長が期待できます。



しだれ梅をバックに、農業センターにて

今回のスケッチ旅は、6月5日の鶴舞公園での菖蒲観賞です。興味をお持ちの方、一緒に楽しめればと思います。参加をお待ちしております。

代表：石井 仁

事務局：村中征也・岩田智与子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和6年年7月～9月分)

<夏山>7月6日(土)7日(日)☆☆☆

山域：中央アルプス

山名：宝剣岳(2,931m)・三ノ沢岳(2,728m)

リーダー：池戸 美恵

7月12日(金)☆

山域：北八ヶ岳 山名：蓼科山

リーダー：村瀬 恭平 募集：3名

<夏山>7月20日(土)21日(日)☆

山域：木曾恵那

山名：富士見台高原・横川山

リーダー：田中 進

<夏山>8月2日(金)3日(土)☆☆

山域：南アルプス 山名：鳳凰三山

リーダー：磯部 隆

<夏山>8月23日(金)～25日(日)☆☆☆

山域：南アルプス 山名：仙丈ヶ岳

リーダー：高松 信治

<夏山>8月30日(金)～9月1日(日)☆☆

山域：山梨

山名：七面山・身延山

リーダー：林 康太郎

<夏山>9月8日(日)9日(月)☆☆

山域：奥秩父 山名：瑞牆山・金峰山

リーダー：近藤 政仁
9月8日(日) ☆
山城：比良山地 山名：武奈ヶ岳
リーダー：今津 英一朗
9月28日(土) ☆
山城：三河高原 山名・物見山
リーダー：金谷 正起

<申込み開始>

支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。月に2山行まで。

2024年<夏山>山行の申込方法

夏山への誘い4月9日(火)に出席者は先行申し込み受付けます。募集定員オーバーの場合4/11に抽選しお知らせします。メール申込は4/12午前6時から各リーダーへ。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

「予告」第62回 4月9日(火) 19:00~20:30
テーマ：「2024年夏山の誘い」東海支部ルーム
講師：山行リーダーが夏山コースを説明します。

「予定」第63回 6月11日(火)
会場：東海支部ルーム 19:00~20:30
テーマ：「富士山登頂2230回・前人未踏の偉業」
講師：實川 欣伸氏(日本山岳会静岡支部員)
實川氏は42歳で富士山初登頂以来38年、2023年は語呂合わせで「ふじさん」の年で世界文化遺産10周年にあたり、語呂合わせで2230回「ふじさん」登頂されました。

75歳からは奥様の美樹さんが食事や健康面の支えとなり、師匠と仰ぐ仲間たちの応援で遂に80歳で偉業達成を語って頂きます。



左から2人目美樹さん
3人目實川欣伸さん

支部友会員数 令和6年2月末現在/67名

<山行リーダー連絡先>

尾上 昇	onoe@onoe.co.jp
金谷正起	kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
榊 将美	m.sakaki@minds.consultin
松本 陽子	yo.kom@nifty.com
田中 進	t.susumu@peace.ocn.ne.jp
磯部 隆	takass@yk.commufa.jp
高松 信治	takama2nobu3@yk.co
今津 英一朗	imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
村瀬 恭平	hoshizakari@docomo.ne.jp
近藤 政仁	vft55ud55@gmail.com
倉橋 智司	ilyt6by8@qc.commufa.jp
奥野 明美	tac.okuno@mbi.nifty.com
池戸 美恵	noboruonna@icloud.com
川崎 禎明	y.kawa715@gmail.com
久野 輝美	kuno4895@hotmail.com
林 康太郎	koutaroppi@gmail.com

令和6年東海支部総会の開催のお知らせ

令和6年の東海支部総会を開催いたします。
皆様ご出席くださるようお願いいたします。
5月12日(日) 午後から OMC ビル 4階講堂にて総会と懇親会を行います。
(時間は後日連絡致します)

会 務 報 告

【2024年1月常務委員会】

日時：1月24日(水)19時 ZOOMとの並行開催

1. 支部長挨拶（高橋）

・財政健全化と支部活性化の取り組みが仕上げの時期にきている。財政健全化については効を奏して来ているのではと思われる。支部活性化については各委員会間の連携を注視して活動をして欲しい。支部間の連携としては古道調査に関連した行事もある。参加協力を。

2. 総務委員会（今津）

・新年会(1/14) 出席60名2次会16名
・倉庫内清掃について：様々な物品があるが、出来る限りの活用を考えていく。
・支部懇談会：参加する方向で人選する。
・事業計画の提出1月31日締め切り。
・支部組織の新年度役員等について各委員会は人選を始めてほしい。
・対東海支部としての損害保険の加入について継続審議とする。

3. 支部友委員会（金谷）

・資料通り

4. 山行委員会（稲葉）

・新規リーダー候補を含め、リーダー委嘱依頼メールを送信。支部活性化のためにも各委員会の委員長リーダーによる山行の実施を。
・2024年度リーダー会議 3月25日予定
・大峰奥駆道南部踏査（前鬼～熊野）支部山行として申し込み欄に掲載

5. 亀の会（鈴木）

・1月19日(金)運営委員会実施
代表交代で新年度の亀の会代表は鈴木慎吾氏。
・1月加入2名退会2名 総数55名
・月例山行第4木曜日(原則) 運営会議(奇数月) 第4金曜日14時～17時
・交通手段について：山行時の車の使用規定が今後の課題。

6. 猿投の森づくりの会（和田）

・資料通り

7. 東海ユース（服田）

・資料通り

8. 支部報177号案(星)

・4月1日発行予定 原稿締め切り2月末(3月行事については別途相談)。
・広告掲載続行についてモンベルと交渉(2月半ばまで)。

9. 登山学校（服田）

・次年度も同様の様式で登山学校を開講予定。

10. アルパインクラブ（高橋）

・会員数32名
・新年会当日の午前中に伊木山基礎講習(一般向け第1回)実施。総会当日の午前中に(一般向け第2回)実施予定。
・韓国交流登山を計画中。山行企画に掲載してアナウンスを行えば山行委員会との連携もとれるので実施していきたい。

11. 自然保護委員会（石原）

・マンサクの木が全国各地で枯れ死していることをうけ、登山時に注意を向けていきたい。

12. ボランティア委員会（前田）

・瀬戸少年院と新しい取り組みの件についてヒヤリングを行った。

13. 遭難対策委員会（高松）

・資料通り

14. デジタルメディア委員会（欠席）

・資料通り

15. 技術向上委員会（欠席）

・資料通り

16. 装備委員会（千葉）

・特になし

17. その他

・熊野古道集中山行について

本日付けで東海支部より案内メール送付。

18. 会計（奥山）

本部への会計報告が3月末にありますのでそろそろ準備をお願いします。

出席：高橋 今津 金谷 稲葉 鈴木(慎)
服田 星 千葉 高松 石原 鯉江 和田
西山 奥山

【2024年2月常務委員会】

日時：2月28日(水)19時 ZOOMとの並行開催

1. 支部長挨拶（高橋）

岐阜岳連のパーティーが行方不明など、いろんな所で事故も起きています。注意喚起を。2月に入ってそれぞれの委員会で、新旧交代で、新旧学連の紹介、鯉江さん1年間長くご活躍お疲れ様でした。新代表は山下大基さんよろしく。

2. 総務委員会（今津）

・支部員2月度退会：2名、3月末に1名
・書籍は、販売基本廃棄(上下巻など500円)、一部冊子およびカジタックス袋無料で配布、小

物など有効利用。

- ・令和6年度体制 メンバー表を確認依頼および回答は次回の常務委員会までに。
- ・ガイドブックの改訂(支部規約改定) 親子の東海支部会費の扱いは夫婦等として総会で承認へ。
- ・損害保険 2024年度からの契約について、承認。
- ・5月12日(日)総会資料説明、講演者なし。
- ・HPシステムが古く見直しが必要。既存HPをベースとして見直す方針で、各委員会からメンバーを集め検討。
- ・古道調査の個人登録、グループ参加メンバーの状況確認。再度メルマガで、PRおよび募集。
- ・全国支部懇談会、再度メルマガで、PRおよび募集。

3. 支部友委員会(金谷)

- ・朝明ミーティングの日程:10月26、27日決定。

4. 山行委員会(稲葉)

- ・2月からワンポイント訓練実施(ザイルワークなど)
- ・2024年度リーダー会議を3月25日実施予定
- ・その他資料通り

5. トレッキングクラブ(服田)

- ・1名入会

6. アルパインクラブ(高橋)

- ・ハヶ岳ガイド講習会実施(アイスクライミング)・冠山(冬季未踏の東陸) 冬季山行実施

7. 支部報177号(星)

- ・支部報の原稿締切 2月末(今週中)

8. 登山学校(服田)

- ・第8期、Aクラス3 Bクラス1 現在、受講生に継続意思を確認中。
- ・その他資料通り

9. ボランティア委員会(前田)

- ・少年院からの依頼については、個人対応。

10. 遭難対策委員会(高松)

- ・3月2日春山気象講座実施予定
- ・緊急連絡先カードの印刷配布予定

11. 令和5年度6回写真展(岩月)

- ・会場 市民ギャラリー予定
- ・東海支部の広報コーナー充実設置を承認。
- ・ポストカードの共催後援欄に好日山荘、石井スポーツ(無償)記入を承認。
- ・写真山行を行い支部友および支部の会員募集。

12. 東海学生山岳連盟(鯉江)

- ・次年度計画を次回の常務委員会で報告。

13. デジタルメディア委員会(井上)

- ・登山届提出用ページ(PCページ、スマホ用ページ)を活用してください。

14. 技術向上委員会(清水)

- ・イグルー講習会および雪崩対策講習会 13名参加で3月23日~24日実施予定。
- ・来年度遭難対策として、計画書作成など講習会を山行委員会と協賛で実施承認。

15. 愛知県山岳・スポーツクライミング連盟(鈴木)

- ・大日ヶ岳雪山研修講習会へ支部員2名参加(現在、岳連18名)

出席:高橋 今津 服田 金谷 稲葉 鈴木(慎)
星 井上 岩月 高松 清水 鈴木(絵)
鯉江 山下

ル ー ム 日 誌

12月	
	大会議室 /小会議
3(日)	東海ユース /登山学校運営委員会
4(月)	支部友委員会
5(火)	県岳連 /TNCC
6(水)	/青年部
7(木)	写真展実行委員会
8(金)	遭難対策委員会
11(月)	登山学校運営委員会
12(火)	支部友ミーティング
13(水)	山行委員会
14(木)	自然保護委員会/アルパインクラブ
18(月)	図書委員会・読図会
19(火)	ボランティア委員会
20(水)	東学連
21(木)	正副支部長会議/総務委員会
25(月)	支部友読図会
26(火)	遭難対策委員会
1月	
3(水)	青年部
4(木)	写真展実行委員会
9(火)	県岳連 /TNCC
10(水)	山行委員会
11(木)	自然保護委員会/アルパインクラブ
12(金)	支部友委員会
14(日)	支部新年会
15(月)	図書委員会・読図会
16(火)	ボランティア委員会
17(水)	東学連 /技術向上委員会
18(木)	正副支部長会議/総務委員会

- 19(金) 登山学校運営委員会
 22(月) 支部友誼会
 24(水) 常務委員会
 26(金) 亀の会
 30(火) 遭難対策委員会
 ─・─ 2月 ─・─・─・─・─・─
 1(木) 写真展実行委員会
 5(月) 支部友誼委員会
 6(火) 県岳連
 7(水) 青年部 /TNCC
 8(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
 13(火) 支部友ミーティング
 14(水) 山行委員会

- 15(木) 登山学校運営委員会
 16(金) 県岳連
 19(月) 図書委員会・読国会
 20(火) ボランティア委員会
 21(水) 東学連 /技術向上委員会
 22(木) 正副支部長会議/総務委員会
 26(月) /支部友誼会
 27(火) 遭難対策委員会
 28(水) 常務委員会

会員異動

退会：伊藤祐幸(15330) 三宅恵子(15291)
 大口恵子(15039) 吉澤和代(16621)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

〈支部総会のお知らせ〉

令和6年東海支部総会は以下のように開催します。ご予約ください。

日 時：5月12日(日) 午後、総会及び懇親会
 (時間は、後日連絡します)

場 所：OMCビル4階講堂

※ 4月中旬に、総会資料および出欠ハガキ
 (委任状含む) を発送いたします。

〈第10回夏山フェスタの開催のお知らせ〉

今年も恒例となりました夏山フェスタを下記のように行われます。

日 時：2024年6月8日(土) 10時～18時
 9日(日) 9時～17時

場 所：ウインク愛知 7階と8階

内 容：山小屋、登山用具店などが集まる山岳総合イベント

主催：夏山フェスタ実行委員会

(構成＝日本山岳ガイド協会、日本山岳会東海支部、中部経済新聞社)

総務委員長 今津英一朗

【ボランティア委員会からのお知らせ】

ボランティア委員会春の行事が行われます、ご興味のある方は、下記までご連絡ください。詳細をお送りいたします。

① SON「山岳会と一緒に登山」2024

4月21日(日)

9:00 名鉄善師野駅現地集合 鳩吹山(330m)

SONのアスリート(知的障がい者)との登山

②ブラインド登山

5月25日(土) 7:45 金山総合駅
 衣笠山(278)・滝頭山(256m)

公募による視覚障がい者との登山

ボランティア委員会 前田隆久

maedaiq@gmail.com

090-7303-9076

ボランティア委員長 前田隆久

【写真展実行委員会からのお知らせ】

第19回写真展の開催に向けて準備を進めています。

- ・日 時：2025.2.25～3.2(予定)
- ・会 場：市民ギャラリー栄
- ・応募要領等：支部報7月号に予告、9月号に
 応募要項を告知します。

今後、随時写真山行や写真勉強会を開催していきたいと思っています。第19回東海岳人写真展の開催に向けて、是非一緒に取り組んでいただける方を募集しています。ご一報お待ちしております。(090-5451-6855岩月まで)

写真展実行委員会委員長 岩月邦文

編集後記

ようやく、支部の日常が戻ってきた感がある。今号では、海外登山、冬期の登攀、夏山フェスタ、写真展、ボランティア等、支部の活動を紹介できることは、編集者の本懐と言って良い。コロナ騒動は、終わりにして欲しいと願っている。

星 一男

SINCE 1975
mont-bell
 FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



☎ 0088-22-0031 📞 伊電話 06-6536-5740
 株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます
 遺言書、遺産分割協議書、
 法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
 名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

『東海支部報』では、
 広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
 名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
 デザイン、インテリアやセキュリティなど
 オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえってお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
 お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
 TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有)アジマプリント

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地
 TEL(052) 901-1256
 FAX(052) 901-2278
 E-mail : ajimaprint@giga.ocn.ne.jp